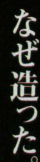


製作

主演

監督



フランケンシュタイン

トイストーリー®シリーズ 提供 共同提供 日本宝塚歌謡協会/ソニー・ピクチャ・エンターテインメント/ジョー・ジョー・ピクチャーズ/タム・アプラー-作品/MARY SHELLEY'S FRANKENSTEIN® トム・ハリス/ヘレン・ミナリ・カーター/アイザック・エイン・ハルム/ジェン・クリス/音楽/ササキ・タケノ/衣装/ジェームズ・アダム/編集/アン・リュー・マードン/プロダクション/セイサン・フィルム・サービス/撮影/ロジャー・プラト、B.S.C.
共同制作/タム・アプラー/エドワード・バーク/製作総指揮/ジョー・ジョー・ピクチャーズ/脚本/スティーブ・アング・ダブリン/制作/フランク・ワード・コボコ/ジェームズ・マ・ハート/ジェン・ベート
[原案/スティーブ・アング/映画化] 監修/スティーブ・アング [リメイク/ササキ・タケノ/映画化]

MARY SHELLEY'S FRANKENSTEIN

「この映画はメアリー・シェリーの原作の雰囲気をよく伝えている一方で、少しばかりひねった構成となっており、またとてもヒューマン・タッチな物語に仕上がっている。クリーチャー役というのは初めてで、かつらを被りこってりしたメイキャップを施されるというのも初めての経験だったが忍耐強い私には苦ではなかった。メイクの上からでも私の表情は十分に印象的であるはずだし、またそうである様に願っている。………ともかく私はケネス・ブラナーの素晴らしい才能を称賛している」

—— ロバート・デ・ニーロ

●『ヘンリー五世』『から騒ぎ』といったシェイクスピア作品から『愛と死の間で』の様なヒッチコック張りのサスペンス、『ピーターズ・フレンズ』の様な現代物のコメディに至るまで幅広いジャンルの作品を監督兼主演で発表し続け“第二のオーソン・ウェルズ”あるいは“ローレンス・オリヴィエの再来”と称されている天才ケネス・ブラナー!!

●『ゴッドファーザーPART2』でアカデミー賞助演男優賞、『レイジング・ブル』では同主演男優賞と二階級制覇を成し遂げ、演じる役柄に応じて声から体型まで変えてしまうその演技への姿勢が“デ・ニーロ・アプローチ”とも“カメレオン俳優”とも呼ばれ、現代最高の俳優として常にその動向が全世界から注目されているロバート・デ・ニーロ!!

●この英・米を代表する映画人二人がガッチリと手を組んだ、全世界待望の作品、それがこの「フランケンシュタイン」だ。フランケンシュタインの怪物というドラキュラや狼男と同じ

くかつてのハリウッド映画によって形づくられたホラー映画のモンスターというイメージが強いだろう。だが実際には『フランケンシュタイン』の原作は女流作家メアリー・シェリーが19世紀初頭のロマン主義的小説の全盛期にわずか19歳にして書いたゴシック小説で、人類が神に代わって生命を創造することへの警鐘を込めた作品として『ブレッドランナー』『ターミネーター』シリーズ、そして『ジュラシック・パーク』など名作と呼ばれるSF映画すべてのルーツとも言える作品なのだ!——(なお、“フランケンシュタイン”とは人造生命を創造した博士の名前で、生命を与えられた方は単に怪物=クリーチャーと呼ばれている。)

●今回、ケネス・ブラナーはメアリー・シェリーによる原作小説の雰囲気を忠実に守ることを心がけ、これまでの映画化作品では本格的に描かれることのなかった北極探検のシーンなど

によって壮大なスペクタクル・シーンをものにし、また自らは博士役を熱演している。対するデ・ニーロはこれまで次第に知性に目覚めていくクリーチャーという難役にチャレンジし、彼の新たな代表作になると期待されている。

●共演は『ハムレット』などコスチューム物のヒロインでは定評のあるヘレナ・ボナム・カーターが博士の恋人役で出演している他、『アマデウス』のトム・ハルス、『妹の恋人』のアイダン・クイン、『ワンドとダイヤと優しい奴ら』のジョン・グリースなど英米の超一流の俳優たちが集められている。製作には『ゴッドファーザーPART2』でデ・ニーロを世に送り出し、前作『ドラキュラ』でも世界の映画ファンを熱狂させた巨匠フランシス・フォード・コッポラがあたっている。

未曾有の興奮をひっさげて、超娯楽大作『フランケンシュタイン』がそのヴェールを脱ぐ時がやってきた!!

1995《新春》ロードショー!!

有楽町・東宝映画街

日比谷スカラ座

03(3591)5355

渋谷道玄坂109前

渋谷シネタワー

03(5489)4210